



次世代モビリティの導入による持続可能な地方都市モデルの構築

桐生市・群馬大学



地域課題（高齢化・公共交通の衰退）

- 免許返納問題（マイカー手放せない）
- 高齢者の外出頻度低下＝QOLの低下
- 地域のつながり希薄化＝コミュニティの疲弊
- 伝統文化の継承問題＝人口減少



次世代モビリティ導入による課題解決

統括プランナーのもとに4つのリージョナルデザインチームを組織

スローモビリティ
活用推進チーム

ナローモビリティ
導入試行チーム

ムービングチェア
導入試行チーム

社会課題検討
チーム

統括プランナー／板橋英之
群馬大学
大学院理工学府・教授
(株)グッドアイ取締役 会長



●イノベーション技術（次世代モビリティ, IoT, ADAS）の導入



スローモビリティ
低速電動バス・
移動する
コミュニケーション空間



ナローモビリティ
近距離の安全な
移動手段の確保



ムービングチェア
バス停までは
自動運転椅子で
お出かけ

●地域の力を結集

桐生市

群馬大学

地域団体

北関東産官学研究会
桐生商工会議所 ほか

地域企業

(株)シンクトゥギャザー
(株)ミツバ・(株)桐生再生
(株)GUDi ほか

市民団体

きりゅう市民活動推進NW
2015からの生活交通を
つくる会

教育組織

桐生高校SSH
未来創生塾

次世代モビリティ導入により、元気で持続性
ある地域が形成できることを検証



全国に普及できる地方都市モデルを構築
全国の地域課題の解決に貢献